

2 子どもワークショップ

小学6年生から高校2年生までの延べ23名がA～Dの4グループに分かれ、グループごとに異なるテーマについて話し合いをしました。

各グループは、それぞれのテーマについて意見交換を行うだけでなく、話しあった内容を企画提案書にまとめ、グループごとに発表を行いました。

各グループが企画提案してくれた意見やアイデアは、本計画に掲げる個別事業を検討する際の参考とさせていただきます。また、児童会館でのプログラムや、子どもの権利条例の広報など、実際に事業を進めていく中でも適宜取り入れていきます。

(ア) 参加者

平成20年度子ども議会の議員のうち、子どもに直接関係のあるテーマを扱った第3、第5、第6委員会の委員(29名)に参加を呼びかけ、2日間で延べ23名が参加。

(イ) 実施時期

第1回:平成21年8月29日(土)9:30～15:30

第2回:平成21年9月 6日(日)9:30～15:30

(ウ) 企画提案書

企画提案書	テーマにふさわしいタイトルを考えました。
提案趣旨	テーマの背景や現状分析についてまとめました。
企画の概要	テーマに関して、「何をしたいか」や「何をすべきか」など、その取組内容について考えました。
成果目標	取組結果としての成果（何が変わるのか、何が得られるのか）について考えました。

テーマ1 放課後の居場所・遊び場づくり

都市化による子どもたちの遊び場の不足や働く母親の増加により、子どもを取り巻く環境が時代とともに大きく変化しています。さらに少子化等の進展により子どもたち同士が地域で遊ぶ機会が少なくなってきました。

札幌市では、子どもの放課後生活を豊かにし、学年の異なる子どもたち同士の遊びを通して、地域における子どもたちの交流を深めるため、児童会館や公園などで様々な遊びや活動を行っています。

■ 特に考えてほしいポイント

子どもたちの放課後生活をより豊かにするためには、児童会館や公園でどんな遊びや活動ができればいいでしょうか。

Aグループは、「テーマ1 放課後の居場所・遊び場づくり」について話し合いました。

札幌市は、すべての子どもたちが安全で安心して過ごすことができる放課後の居場所づくりを進めるとともに、遊び場の整備を行うため、様々な事業を行っています。

子どもたちの放課後生活をより豊かにするためには、児童会館・ミニ児童会館や公園の整備など、ハード面の充実だけではなく、子どもたちがそこで何ができるかというソフト面を充実させることが大切です。そのため、「放課後の居場所・遊び場づくり」について、子どもたちに意見交換してもらいました。

学校だけでは経験できない様々な活動・遊びの導入や、他学年の生徒などとの交流を希望する声が多い一方で、宿題やテスト勉強ができる時間・場所が欲しいという意見もありました。

また、活動内容を自分たちで考え選択することで、放課後の居場所を、安全・安心に過ごせるだけでなく、自分たちの「お気に入りの場所」にしたいという趣旨から、企画提案書のタイトルを「Favorite place」と名付けてくれました。

札幌市はこれまでも、児童会館やミニ児童会館において、子どもの文化的素養を培うため、様々な取り組みを行うとともに、「子ども運営委員会」を設置し、児童会館利用のルール作りを行うなど、子どもが意見を発表する機会を設けてきました。

今後も、この企画提案を参考に、基本目標6—基本施策2「放課後の居場所づくりと遊び場の提供」の事業内容の充実を図るとともに、児童会館・ミニ児童会館の実際の運営に反映させていきます。



企画提案書

Favorite place

提案趣旨

学校でできないことができる。

- ・学校以外の人との交流(同学年・他同年)
- ・学校以外のイベントの参加
- ・学校で、時間制限・場所がやりづらい活動
- ・学校外の人間関係を築くことで人間関係の強化になる
- ・自分達で自由に決められる。

企画の概要

- ・公園や児童会館など日にちごとにスケジュールを立てる。
〈例〉同学年の集い、集まり。他学年との集い、集まり。
- ・学校にイベント等のチラシを配布。
↳ 昨年のイベントの写真、感想を記事として作成。
- ・児童会館等の中、高生向けの資料・参考書があると利用できる。
- ・イベントで子育てや、子守りボランティアをする。(子育て体験)
- ・文化祭の準備等の為に利用時間を延長して使える。
〈例〉お化け屋敷の小物づくり・劇の練習。
- ・大画面の映画観賞をもっと実施する。

成果目標

- ・別な居場所があることにより、今の居場所がより快適になる?
- ・テスト前などに勉強できる? ・スポーツなど決められたメニューしか学校ではできないが、自分で自由に選択できる。
- ・他校の同学年同士、他学年同士、友達の輪が広がる?

テーマ2 多様な体験機会の提供

子どもたちが、心身ともに調和のとれた人間として成長し、他人を思いやる心や豊かな人間性をはぐくんでいくため、自然体験や、芸術・文化体験などの遊びや学習を通して、子どもの発達段階に応じた多様な体験機会を提供する必要があります。

■ 特に考えてほしいポイント

子どもたちが、心身ともに調和のとれた人間として成長していけるために、札幌市はどのような体験機会を提供していくべきでしょうか。

Bグループは、「テーマ2 多様な体験機会の提供」について話し合いました。

子どもは、様々な体験機会の中で多くのことを学び、豊かな人間性をはぐくみます。こうした体験機会は学校教育等において与えられるほかに、家庭や地域社会など、様々な場面で経験できることがより効果的であると考えられます。しかし、ライフスタイルの変化や地域の間関係の希薄化などにより、子どもたちの体験機会は減っています。

札幌市は、次世代を担う子どもたちが、規範意識や社会性、他人を思いやる心などを身につけ、豊かな人間性をはぐくむよう、様々な分野において、体験型の事業を実施しています。これらの事業を進めていくうえでの参考とするため、「多様な体験機会の提供」について、子どもたちに意見交換をしてもらいました。

話し合いの中では、「自然とのふれあい」、「川下りやナイトハイクなど学校ではできないような野外スポーツ」、「他の学校の生徒との交流」、「自分たちで育てた野菜や釣った魚を使った料理」、「自然の素材を利用した木工など、エコを意識した遊び」など、様々な案が出ましたが、企画提案書はキャンプに限定して作成してくれました。これは、それぞれの体験機会を別々に行うよりも、複合的に経験できた方がより効果的だからという理由で、子どもたちが考えてくれました。

また、与えられた体験機会にただ参加するのではなく、自分たちで考え、積極的に関わってきたいという意気込みから、企画提案書のタイトルは、アメリカ大統領選挙での有名なセリフをもじって「Yes, We canピング」と名付けてくれました。

ワークショップの中では、企画提案書とは別に、体験型事業の周知方法などについても様々なアイデアが出ましたので、基本目標6ー基本施策3「可能性を伸ばす多様な体験機会の提供」の事業を進めていく中で、今回の意見を参考に内容の充実を図るとともに、子どもの発達段階に応じた多様な体験機会の提供に努めていきます。



企画提案書 Yes・We can ピンク

提案趣旨

- ・キャンプに行きたか、だから
- ・男女関係なく参加できる野外活動をしたか、だから
- ・男女が協力して楽しめる。
- ・自然とふれあいたいから

企画の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・ナイトハイク ・印探し ・心霊体験 ・ライン下り ・キャンプファイヤー ・自然の動物探し 	<p>男女が一緒にできるのは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きもためし。(男女ペアで) ・キャンプファイヤー ・料理する カレーや自分たちで とったものをつかう。
--	--

成果目標

- ・自然との調和
- ・交流の大切さ
- ・普通の生活がどれだけ便利かを再認識する
- ・エコで遊ぶ、楽しむ
- ・他人の大切さ